常磐毎日新聞
日刊

常磐線の特急運轉
愈よ今秋から實現？
昨日の試運轉の結果は〝OK〟

今秋から實施される常磐線のスピードアップに備へて水戸平驛間の試運轉はC五七型機關車に鋼鐵類一、二等ボギー車十四輛（換算四十五輛）を連結東鐵局村田、江口兩技師同乘し水戸機關區石丸主任技師監督の下に機關士長谷川德君が運轉して十九日行はれ午前十時水戸驛發日立驛に八分間停車し同十一時三十八分平驛着午後一時三十八分同驛發水戸驛へ歸つたが

C五七型機關車は現在東海道線特急列車を牽引してゐるもので今回の所要時間は兩驛間九十四キロを一時間三十八分で走破、現在の急行に較べ試運轉乍らも遜色なく平均七十二キロの快速振を示した、なほ去る十五日仙鐵局で仙臺、平驛間で最新C五八型機關車で試運轉してをり愈よ今秋から待望の特急列車が實現し一等車の連結も復活されるものと期待される

飼料の自給で
家畜類を大增産
先づ各學校に飼料作成勤勞班組織

することになつた

家畜類の大增産計畫は飼料の入手難に祟られてその達成が案ぜられてゐたが平市及び部農會では飽まで增産の成果を擧げるため今般管内の青年團並に中等學校、小學校の生徒兒童を動員して勤勞班を組織し徹底的な空閑地利用を斷行、飼料の自給自足に邁進することになつた

これが飼料作成勤勞班の組織は青年團並に學校を單位として原野、荒蕪地、空地を利用して大豆、唐包米を採培するものである、尚作成された飼料は勤勞班に自由に處理させる方針だが縣からも機械器具購入助成費として一段歩につき三十圓の助成金が交付される筈

磐中職員生徒獻金

磐中の職員生徒一同は金百圓を醵金今二十日平市役所へ恤兵獻金として寄託したが市内中臨の鈴木隆德君も金十圓を市銃後奉公會へ除隊記念として寄附した

海軍水路部觀測所

小名濱港に今度海軍水路部觀測所が設置されることになりこの程海軍水路部大東少佐が來町、町當局と打合せするところあつたが事務所は漁業組合に置くことゝし近く事務を開始する

植田理髮總會

植田理髮組合ではこの程總會を植田署で開き料金値上げ案其他協議したが席上模範徒弟として植田町本町相良皆吉氏方栗崎一郎君を表彰した

記念のつゝじ
二百本を拔取る
心なしの曲者嚴探中

既報植田町では皇紀事業として三月中旬郷社八幡神社公園つつじ五百餘本を殖樹したが、このつつじ約二百本が無殘にも何者かにひき拔かれたのをこの程發見植田署では重大視し犯人捜査中である

屠場の獸魂祭

錦町營簡易屠場で二十二日午後一時から屠殺畜類の冥福を祝る獸魂祭執行される

郷土部隊の英靈
近く故山へ凱歌

既報中支戰線で壯烈護國の華と散つた郷土部隊の英靈は二十八、九日頃故山へ聲なき凱旋をするが地方關係者は左の如くである

△平市歩伍鮫島弘道△歩上飯野村馬場國夫△高久村歩伍芳賀吉勝、同歩上鈴木精△湯本町歩上大金義雄△上遠野村歩上竹森良雄▽小名濱町歩上佐藤武雄△内郷村歩上渡邊猛△錦村歩上正木吉年▽磐崎村歩上磯上孝治▽江名町歩上黑川藤平△勿來町歩上赤津勝太郎

四倉築港
―第二期工事完遂に邁進―

四倉漁港の改修は所謂第二期工事として工費十四萬圓で工事中であつたが最近諸資材の値上りにより更に四萬圓程度の追加がなければ豫定の工事は出來ずこのまゝ手放しては今まで折角進んだ工事が臺なしになる恐れがあるので地元の木村縣議は十九日町會代表數名と共に出縣、四萬圓追加方を陳情したが縣では四倉漁港の修築は追加四萬圓では充分でない、少くも十萬圓を投じなければ完成せぬといふ見透しのもとに農林省に對し十萬圓追加を要求する肚を決めてゐた矢先なので近く後藤土木部長が上京、地元と歩調を揃へて實現に邁進

就職女兒の
斡旋既に三百名
張切る平職業紹介所

平職業紹介所では青少年雇入制限令の實施によつて急に女性の職場がひらけたので今年小學校を卒業する女生徒の斡旋については從來以上愼重を期し過般來夫々振分けてゐるが既に三百餘名を斡旋、更に各方面からの雇入れ申込みが旺盛なので管内關係筋と緊密な連絡の下にあと二百名を斡旋することになり少年係りの田久主任以下張り切つてゐるものゝ男女全部を片づけるにはやはり今月一杯は要するだらうとみられてゐる

縣下 菓子組合
役員改選

縣菓子工業組合ではこの程平市公會堂に總會を開いたが役員は改選の結果左の如く決定した

△理事村上良七、植木又四郎（以上福島）石河俊（郡山）並子直次（平）岸久藏（若松）市川勳（白河）宇内幾右衞門（喜多方）宗像德彌（小野新町）△監事高木嘉助（福島）猪狩忠（原町）長谷川啓次（若松）柏木周藏（郡山）

天氣豫報

今晩は北西風
明日も北西の晴一時曇

上遠野糶市
第一日目成績

石城郡産馬畜産組合の上遠野馬市は十九日から廿日まで行はれる、第一日目は出場馬數六十五頭、賣上金一萬八千二百九十四圓、平均二百八十一圓四十錢、最高四百卅一圓で昨年度に比し平均七十九圓六十八錢高である、なほ本年の出場馬豫想數は三百卅一頭で昨年より九十三頭の增加である

小名濱支局通信

私學茨城中學を訪ふ
支局長 小野務平

中等學校入學志望者の考査が改正された本年度に於て記者の家庭にも其考査に依つて入學せしめねばならぬ四男昭がある昨年度は尋六から入學せしめ様として遂行其考試をスベリ落ち高一で一ケ年を過ごした、受持先生からの話しでは本年度は大丈夫だらうと言はれ本人も亦親として吾輩も大丈夫と思つた。

然るに考査の結果は大丈夫でなくして亦失敗と云ふ浮目を見るに到つたので本人の落膽は言ふまでもなく親たる立場に在るものも決して愉快の氣持ちではなかつた、此の感想を持つ親は決して記者のみであるまいと思ふ

そこで色々考へたが本年度の新考査方法が出身學校で大丈夫であると云ふのを裏切つて大丈夫でないと云ふ理由を聞きたい様な氣持ちであるがそれも初まらない、では何か他にあきらめの方法がないかと云ふ事で他校の入學率を聞いて見るとどうも尋卒を主體として高一は其儘で僅かに一人位の入學を許可すると云ふ方針である様な風に解せらるるふしが多々ある。

こうなると高二に置いては更に入學率が惡くなると云ふ結果になるからどうあらうとも中學校に入學せしむる必要があると決心せねばならぬ事に過着した、更に案じた事は十四五の年頃になると高一、二の學科では頭に餘裕が出來て遊ぶ事が主となり易いそうなると勢へ邪道に流れ込む恐れもある、此點からも觀察しても中學校に學ばしむる必要があると云ふ點から學校の詮索に取り掛つた縣立が決定して仕舞つた以上私立學校に依るの外はない、第一に石川中學校に西牧教頭に照會する仙臺市の東北學院の角田教諭に、更に關係學院（横濱市）の多田教頭にと云ふ様に知人に向つてあらゆる方法を以て照會したが何れも締切後で如何とする術がない、そこで最後に殘された私立中學校として水戸市茨城中學校が僅に一校となつたのである。

去る一日其内容を聞かんとして怱皇として出水し水中教諭の飯塚君に茨城中學校の組織内容を聞いて見たが私學としての整頓縣立中學校と決して大差ない許りか却つて水高入學歩合などから見て侮り難い力のあるを聞き茲に入學せしむる決心を確め四日付其手續きを終つたのである。

一日に受付受驗生數は二百三十名内外であつたから或は三百名内外でないかと見て手續きをしたのであるが五日付の受驗番號が忽然四百六十七番であるに見ては或は五百位まで行くかと考へ定員百五十名である點から見て遙かに磐中より困難である事を察知出來る。

八日よりの考査だと云ふので兒童を引連れ水戸市を訪れ谷中町水戸館に陣取つて受驗する事になつたのであるが、其數實に五百四十幾名と云ふ多數に上り磐中入學より更に困難の關所を突破せねばならぬ一大難關に遇着したと云ふ結果を招來したのである。

【續く】

斷然他を拔く
平産看學校
産婆試驗合格七割强

本年第一回産婆試驗は過般福島市で行はれこれが結果は十九日發表されたが合格率百パーセントの定評ある平市南町平産婆看護婦學校卒業の合格者は左の如く受驗者三十三名中二十三名榮冠を獲得本縣全合格者七十二名の三分の一强を占めるといふ斷然他校には見られない好成績を示してゐる

矢内歌子　大竹いさを　今みよ　遠藤好子　佐藤トクヨ　平澤ミツイ　佐藤キヌ子　矢口貞　大森ウメノ　小松マツエ　佐藤キミヨ　大内フミエ　鹿野タツヨ　加藤カヨ　村田ちよ　熊田キイ子　荻野キヨ子　小林キヨノ　西名テル　遠藤ふく　渡邊ミネヨ　猪狩サダ　秋元リヱ

飼料不足で
郡下の養鶏不振
泉方部は激減を來す

石城郡養鶏組合聯合會では飼料難と勞力不足のため養鶏は減羽する一方で悲鳴をあげてゐる、即ち縣下有數の泉村養鶏組合では昨年四月における一萬二千余羽の養鶏羽數は現在七千羽に減少した、なほ泉地方は現在牛、馬鶏等の重要飼料たる麥が不足し一石當り廿五円の高値となり比較的安い玄米或は籾が代用されて、節米運動が騒がれてゐる折柄重大視されてゐる右につき泉組合では語る

飼料不足には全く困つてゐます荷馬車の馬の一日分の飼料は玄米三升で鶏十羽の飼料は一升位必要です

高橋市議夫人寄附

平市白銀町高橋市議夫人まき子さんは今二十日愛婦平分會へ金三百圓を寄附關係者を感激せしめてゐる

肥料用空叺
―回收に積極運動開始―

既報肥料配給の圓滑を期さうと平及石城郡農會で督勵中であつた肥料用空叺の回收は成績芳しからすとあつてこの程肥料會社より叺回收の督勵方を通牒してきたので同農會では肥料叺回收を積極的に行ふことになつた右につき市農會では語る

空叺回收が遅れたのは肥料配給が遅れたことにも起因してゐると思はれるが、とにかく叺回收が不成績のため肥料配給が不円滑になつては大變だから早速督勵に乘出すことにしました

平局の記念式典

平郵便局では今二十日の遞信記念日に當り午前七時四十分から同局樓上で局員一同參列記念式を擧行した

自動車ポンプ購入

既報小名濱警防團では消防陣充實のため一萬五千圓の寄附を募り小型自動車ポンプを購入することになつたが早くも柳内吉助氏一千圓を筆頭に半額集つた

炭礦經營者が
闇取引の親玉
ボロ儲が約四千圓

〃これは呆れた炭礦主！反國策事件で檢擧さる〃

内郷村大字宮字竹ノ内大分縣直入郡久住町生れ豊國炭礦經營主大塚諭（三八）は闇取引を行つたこと發覺、目下平署に留置され取調べを受けてゐる

同人は本居塊炭一トン十六圓、同粉炭十二圓下居塊炭十一圓、同粉炭九圓の公定價格を無視して本年一月頃から三月にかけ二圓乃至五圓のプレミアム付で神奈川縣川崎市南町丸木燃料商店、東京市駒込區吉祥寺町山内九兵衛治、富山縣富山驛前北國石炭會社富山出張所四倉町酒井源太郎、内郷村綴驛前石城炭礦會社等に千九十三トンを一萬七千三百九十四圓で販賣、約四千圓のボロイ儲けをしたものだが他にも關係者があるらしく同署では各方面に手を延ばし調査中である

渡邊君村葬

既報前線で散華した泉村出身砲伍渡邊眞太郎君の村葬は二十一日午後一時から小學校で執行される

石城の鰹船
早くも出漁準備へ

青葉の候となつて石城各濱の鰹船は目下大童の出漁準備を進めてゐるが昨年から南洋で鮪漁中の東日本丸（小名）安波丸、榮福丸（以上江名）三隻の歸港を待つて總計九隻の鰹船が五月上旬、金華山沖に出向く段取りである

さて今年の鰹漁豫想であるが既に開始された南九州方面方面の漁況並に黑潮の水溫から推して豊漁疑ひなしとされてをり前年の一隻平均七萬円を遙かに突破するものと見られてゐる

亂暴な鳶職檢擧

植田署では目下日立市網代組鳶職三堀金之助（三二）を留置取調べてゐるが同人は十六日夜十時頃植田町番所下料理店榮屋佐藤きく方に登樓中の錦町日雇業佐藤義秋（二七）を同家の勝手元にあつた刺身庖丁で斬りつけ佐藤の右頸部に全治一ケ月の重傷を負はせ更に仲裁に入つた大工職鴨原次郎の兩手にも擦過傷を負はせ逃走中捕へられたもの

原因は被害者佐藤が花見の歸り花柳界をひやかし中喧嘩を始めたので加害者の三堀が仲裁に入つたが相手にされないのを憤慨した結果

佐藤主任退職

平市役所書記から市營の公益質屋の主任になつた市内鷹匠町佐藤伊太郎氏はこの程家事上の都合で退職された

平市人事

◎[illegible]室

△田町五五目下吳市阿賀町九〇六高橋一郎氏長女光子さん

△上平窪字眞似井七三目下滿洲國吉林省懷公主嶺街河南商會胡同二四白土大三郎氏長男公昭君

◎婚姻

△東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺二、二五四篠崎太郎（二八）氏と田町一二壺土秀（二四）さん

ラヂオ
今晩の部

▼後六、〇〇　子供の時間「なぜなぜ問答」解説大島正満

▼後六、二五　講演「歐洲列國の戰時體制」郷司浩平

▼後七、二〇　郷土に寄する言葉　小野孝

▼後七、三〇　國民歌謠

▼後七、四〇　子供と家庭の夕　全關西吹奏樂聯盟

▼後九、一〇　改訂歌詞長唄選（三回）芳村伊千三郎

明日の部

▼前八、〇五　小島の帝聲（メンデルスゾーン曲）ピアノ獨奏金子茂子

▼前九、三〇　ラヂオ紙芝居「水は語る」松井翠聲

▼前一〇、四〇　講演「英靈に感謝し遺族に敬意を表しませう」岡田周造

▼後〇、〇五　アツコーデイオン合奏、トンボアツコーデオンバンド外

▼後〇、三〇　野球實況…東京大學野球聯盟リーグ戰

▼後一、〇〇　傷病將士慰問の午後

▼後二、五九　北米西部向海外放送「管絃樂、交響組曲」日本放送交響樂團

▼後三、四〇　朗讀「馬と兵隊」瀬戸アナウンサー

▼後六、〇〇　子供の時間　連續劇「たんれん部隊」（四）大阪放送こども會

▼後七、二〇　郷土に寄する言葉　作家田口掬汀

▼後七、四〇（臺南より）高砂族の音樂「蕃樂器演奏」高雄洲潮州郡ボクヘウ社パイワン族

▼後八、〇〇　寄席中繼「神田立花演藝場より中繼」杜文樂他

▼後九、四〇　郷士便り（廣島發）

郷土に ―寄する言葉

（午後七時廿分放送）
遞信省工務局 小野孝（福島出身）

私は最近の東北に對しては認識を欠いて居りますが一言東北の若き健兒に申上げます。由來東北人は質實剛健、困苦艱難に耐へ、一旦緩急に際しては絶大な功績をあげる美點を有しますが、半面愚鈍粗野、政治を知らずといふ批判をうけます然しこの批判は東北人の良き素質をあげてくれたもので斯くの如き人こそ今日ならびに今後の日本が求めて止まないのであります。

此の天附の素質をしのび時局を考へ東北健兒は切磋琢磨、各分野の先達となり大和民族をして世界の先驅者たらしめられんことを期待して居ります。

鐵管代用
エタニツトパイプ

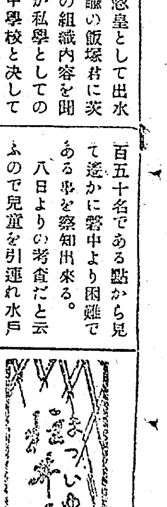
	耐壓封度	内經	一本ノ長サ	一本ノ價額	ギボルト繼手代
D級	250	50ﾐﾘ	3m	4.72	2.90
〃	250	75	3	6.97	3.50
B級	100	100	3	7.90	6.25
〃	100	150	4	17.70	9.20

平市仲町通り
山田文一商店
電話262番

◎診療科目
一、齒科一般
保存科、補綴科、繼續槽工科
小兒齒科、槽漏膿科、齒列矯正科
一、口腔外科
一、レントゲン科

平市田町（松月堂向）
中野齒科醫院
電話五〇九番

院長 日本齒科醫學士 中野憲次
日本齒科醫學士 鹽谷伍郎
補綴部主任 佐藤重義


まついゆうけんでん
松井勇劍傳

第五十四回

大蛇射とめらる

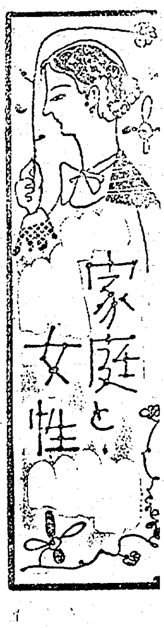
此の時早く大蛇は一間ばかり向ふへ[illegible]く待ち構へて居ると同じく今日、鐵砲組の中に加はつて居た杉原民次郎が狙ひを定めてパーンと一發打ち放つたのでございます。狙ひは過たず大蛇の右眼を[illegible]きましたから。さしもの大蛇もドットばかり反覆かへる。此の間に河内守殿は[illegible]四五間も逃げ[illegible]された。民次郎[illegible]して追つたりと今[illegible]、[illegible]を致して側に置いてあつた鐵砲を取りあげて又もや狙ひをつけると。同時に[illegible]かへつた大蛇は[illegible]を吐きかけんとてかまを[illegible]げて[illegible]と開いた口中へ[illegible]に一發打ち放ちました。人間の智慧と云ふものは[illegible]なものであります。此の日お[illegible]に加はつた[illegible]郎は、河内[illegible]

[illegible]は遠くより此の[illegible]を[illegible]めて[illegible]の[illegible]さた、ワッと[illegible]をそろへて[illegible]め立てます。河内守殿も此の[illegible]れて[illegible]で感心なされ、河『天晴れなる働き、[illegible]は何者なるぞ』との[illegible]に、[illegible]まつて、ペラ／＼[illegible]郎の[illegible]へ[illegible]り ○『テイヤ貴殿は誰方でござる。[illegible]ございますぞ、早々名を名乘らつしやい』[illegible]いて[illegible]いた。○『[illegible]は誰方でござるか。御[illegible]中のかたでござるか』 民『イヤ手前は[illegible]して[illegible]日大蛇[illegible]治の[illegible]でました[illegible]山[illegible]守の[illegible]民次郎と申し、[illegible]の老臣[illegible]四郎右衞門[illegible]でございまする』 ○『イヤ左様か』と[illegible]いて[illegible]返し、[illegible]守[illegible]に於かれまし[illegible]げました。河[illegible]しても[illegible]外に[illegible]しまし[illegible]何んちや[illegible]が[illegible]で[illegible]

[illegible]が打てつ[illegible]があつた時に自分だけは打たなかつた。それ[illegible]りでなく[illegible]に居た[illegible]にも止め一打たさなかつた。と云ふのは大蛇が巻き付いてゐた松の樹と云ふのは、此陰から大分距れて居る。それへ向けて打ち放して、若し狙ひでも狂つて居ては[illegible]、又旨く命中しても急所でなければ却つて大蛇を狂はせるばかり、其の時、[illegible]鐵砲を打つてしまつては大變、今に狂ひ猛つて此方へ[illegible]つて來るであらう、其の時こそ[illegible]の一發、打ち止めてやろう。[illegible]し世にも稀な怪物のこと故、一發では[illegible]ないと、[illegible]の持つてゐる[illegible]丸[illegible]め[illegible]鐵砲を此方へ取り、ジッと大蛇の來るのを待つてゐたのでございます、[illegible]ありますが、人にも勝つた[illegible]、如何なる大蛇も急所を二發まで受けては堪まりません。全身の[illegible]てゝの[illegible]打ち[illegible]しみます[illegible]民次郎[illegible]鐵砲を逆手に持ち直して大蛇に[illegible]附き[illegible]、[illegible]にたれ、打ち碎きました。[illegible]い[illegible]丸で打ち止めることの出來なかつた大蛇[illegible]、[illegible]か二[illegible]の彈丸で[illegible]いたした。一目で[illegible]中の[illegible]であつたとか、[illegible]て／＼[illegible]らしき[illegible]、[illegible]れの[illegible]にても目[illegible]り[illegible]すそれへ[illegible]て參ります」[illegible]で民次郎にその由を[illegible]へます。

民次郎に於ても河内守殿の[illegible]と云ふので[illegible]を下げる 河『其の方が、四郎右衞門の[illegible]にて、下[illegible]と申すか』 民『[illegible]にございます。今日は御[illegible]中の[illegible]する。[illegible]いて見[illegible]して[illegible]した[illegible]、[illegible]れ入りました[illegible]、[illegible]のごとしたるもの故、[illegible]してあつては[illegible]かれまするやう[illegible]ひ上げます』 河『イヤよくぞ大蛇を[illegible]め[illegible]た。[illegible]なる汝の[illegible]きに[illegible]つて予は身を遁れる[illegible]が出來たと申すものぢや、改めて[illegible]をとらすぞ』 民『[illegible]れ入り奉ります』 河『[illegible]城内に於てゆつくりと[illegible]』[illegible]所とて其の[illegible]でありました。

さて大蛇を仕止めたと云ふので一同が安心してゾロ／＼それへ集まつて參ります。中には穴の中から這ひ出す[illegible]や、木のたから下りて來る者もあります。[illegible]の大蛇には[illegible]たと見えます。[illegible]へ近づいて何れも[illegible]く。



家庭と女性

—火鉢の中で—
炭「馬鹿に臭いが、豆炭、お前だな」
豆炭「何を！手前の方がよつぽど……」
炭「なんだって！」
豆炭「闇取引くさい」

「女性二千六百年史」

平井恒子

「女性二千六百年史」は一生を賭して一大日本女性史の編纂を志してゐる高群逸枝女史が、その熱心な研究の一部分を割いて簡潔にまとめた一冊である。

これはしかし世上のいはゆる女性史に見る有名の列傳ではない。そこには各時代別に制度、經濟、宗教、道德等を通じて社會的存在において正しく把握されたわれ等の祖先の姿が、その時代のふん圍氣の中に歷然と示されてゐる。女性の手によつて書かれた女性史が少しも女性を甘やかすことなく、嚴かな史實を突きつけて女性に訴へてゐる點は、この本の特色として[illegible]を表したい。

私は特に德川時代の女訓の解説に興味をもつた。これが明治以來女子教育の根幹をなす良妻賢母主義の源泉として、女性文化にどんな役割を演じてゐるかを思ふ時、女訓は決して過古の女性觀として葬ることができないのである。

なほ卷末の十年間の感想隨筆は、貧しさと病弱とに闘ひながらひたすら初志に邁進する著者の燃えるやうな探究精神を語る一方、淡々とした身邊雜記の中ににじみ出てゐる人としての純情の美しさに、深くも心ひかれるものがある。

戰時と貯蓄

(一) 百億の貯蓄は家庭經濟から
(二) わづかでも機會逃さず貯蓄せよ
(三) ボーナスはそつくりそのまゝ國債に
(四) 衣食住贅澤しのんで切りつめよ
(五) 衣食住國產品で一貫せよ
(六) 無駄な手みやげやめにせよ
(七) 宴會費かさめば貯蓄總くづれ
(八) 進んで家族そろつて勤勞を國のため資源の開發家庭でも
(十) 貯蓄增加は通貨の減少物價の低廉

≡お母様への指針書≡

子供に玩具はどんな物を與へたらよいか

子供と玩具はきりはなすことのできない必需品なのである、だから子供に玩具を與へることはちがいないことにちがひないが、しかし世の親達は、我が子に適した玩具を選び與へることについては、とかくなりにしがちで、我が子にせがまれるまゝ、やたらに買つてあたへる如きは、子供の成長にとつて悪影響を及ぼす結果となるので親は大いに自らをいましめねばならぬことであらう。

「玩具の選び方あたへ方」について、この道の研究家である目白の日本女子大學教授氏家女史は左の如く語つた。

子供の仕事といへば遊びです、遊びの世界を豐かにさせることはきわめて必要なことで、これにはどうしても玩具の力を借りなければなりません、ですから玩具の選び方の可否は子供にとつて影響は大きいので、よい玩具をえらぶためには次の諸條件が必要だと思はれます。

〔第一〕子供の年齢を主にして選ぶこと

これは四歳なら四歳向のものがよいが、多少年齢の高いものをまぜてあたへることが子供の成長にとつてよい。

〔第二〕子供の特徴を考へて選ぶこと

自動車のすきな子供なら、自動車の玩具を多くあたへるやうに、子供の特徴によつて色づけることがよい。

〔第三〕子供の個性をかんがへて選ぶこと

亂暴する子には靜かにして遊ぶやうな玩具をあたへて、亂暴な性しつをあそびから自然に矯正できるやうにする。

〔第四〕できるだけ衞生的のものを選ぶこと

小さい幼稚な時から四五歳ごろまでは、とかく玩具を口にしやすいから洗滌のできるもの、陽に干してよいものをあたへ、且つできるだけ注意して清潔にしてやる。原料のわるいはげやすいものとか粉になつておちる粘土製のもの、こわれやすいもの、ゴム風船（吹いてふくらますもので、吸ひこむ危險がある）等々はあたへないやうにする、またセルロイドは特に火を注意すること。

〔第五〕經濟的に選びそして一つものをいつまでもあたへておかぬこと

高い物を求めて、高いものだからといつまでもそれをあたへておくのはいけない。安いものゝうちにもいゝ玩具が多い。

・選び方は大體以上のやうな注意をすればけつこうですが子供と一しよに買ひに行くことはいけないやうです。それはとかく目うつりしやすく物をねだるくせがつきます。

さて選んだ玩具を子供にあたへたら自由にあそばせることです。

大人がついてゐて「それは違ひます」「こつちの穴だ」「こうするんだ」など干渉するのはよくないやうです。

繪本などでも「こゝは何の繪だ」とあまりおせつかい式に説明し、大人の型にはめないで、子供自身で味はせるやうにすることが大切です。

一本のマッチ 付木三本生む

少しでも各御家庭のマッチ節約を援助するため、次のやうな工夫を凝らしてみました。即ち軸木の先についた從來からの藥品は、まだまだ多すぎますので、四角な一本の軸木についた三方の藥品を小刀でけづりとり、そのけづられた粉を長く切つた鼻紙の一端にのりでつけ、乾かしてから炭火などにその藥品をの部分を直接つけられますとすぐ發火し、又それがたやすく鼻紙にもえうつゝて丁度つけ木の役を十分に果すものです。一本の軸木の三方からけづられた藥品は鼻紙三枚に十分つけられるので、いはば一本の軸木に三枚のつけ木が新たに生れるワケです。

お茶檢質法 家庭で出來る

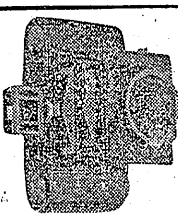
・御家庭でできるお茶の簡單な檢査法を紹介しませう

・煮沸した淨水百グラムを盛つた茶碗に、茶十グラムを入れふたをして十分間ばかり浸出します、その後、粗い茶こしでよく茶葉をすくひとり、その殘液について、まづ茶湯の色、香、味の三者を檢査します之三者はいづれも茶に各自特有の性しつをあたへるものです、もし茶わんの底にかすがのこつてゐるやうであればこれもしらべます。ぬとか砂土、泥或はゴミ或は纖くづなどの不純物は、容易に判別することができます

・茶葉をしらべるとそれには植物學上[illegible]の形狀や葉脈などがあつて、容易にその品種の上下や純不純などを鑑別することができます

・茶葉の幼芽はせまくまいてゐて、裏面には細毛がありますが少し成長した葉は、葉邊に淺い鋸齒がありますが、茶葉の鋸齒はまだ現れてゐません、これが、さらに成長しますと、葉脈が羽狀として葉の中心から尖端まで、兩側にかけた鋸齒がいくつもできてきます、また鋸齒も強く、深くなつて、葉柄の少し上方から兩側にかけて先端に及んでゐます（女子經濟專門學校、沼畑金四郎）

文明人とカメラの趣味 殘せ春のアルバム



さア愈々カメラのシーズンとなりました。これからの野へ山への散策にはしいハイクには必ず愛用のカメラがお供をすることでせう。文明人とカメラは正比例すると云はれてゐますが、カメラを肩にしてゐる人々を見るとたしかに文明人らしい感じがします。

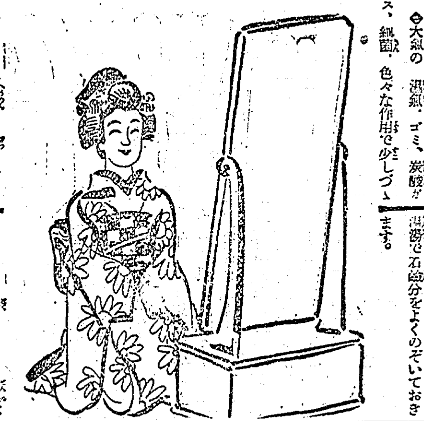
時局柄輸入品は殆どありませんが近頃は製作技術も進んで、決して外國品に劣らぬ優秀な國產品が多く出てゐます。然し時局柄何と云つても材料不足ですから出來るだけ大切にし若し飽きて交換の場合や新品を求める場合は信用ある寫眞機店を選ばなければなりません。

さて四月の寫材風景は文字通り百花の最高潮で眼に觸れるものは皆すべてが絶好の寫生題であり好題材であります。光線狀態も好く初めての人にも失敗はありません。春風や堤長うして家遠し——と蕪村の句にあるやうな春の姿。若葉もえ出でんとする山野、さては海[illegible]と、カメラマンにとつて[illegible]のはこの頃のものであ[illegible]

高價買入 交換歡迎
カメラは
三共寫眞堂本店
東京日本橋室町[illegible]電話日本橋[illegible]

案外に知らぬ 鏡の智識

映し方とその手入法



・コートを去り外とうをぬぐ季節の鏡臺には御婦人方は特に姿見の前に御自分の姿に強い關心を拂ひます。一體鏡は澄んで滑らかなものでなくてはなりませんが、あの平滑なガラス面をながい間大氣中に暴露してゐるうちに

・大氣の濕氣、ゴミ、炭酸ガス、細菌、色々な作用で少しづゝながら風化し表面を粗雜にしくもらせて行くものです。なほ直射日光の反射や化粧用の油類等の作用も相當あるものです。

・窓ガラス等はかういふ場合にいはゆるガラスみがきといふみがき粉でこすつたり又は稀鹽酸でふきさへすれば、どんをよごれやくもりもきれいにとれますが、鏡は絶對にこれを用ひてはなりません目に見えないやうでも傷つくものですから

・平凡な方法ですが、石鹼の微温湯をつくりやわらかいリンネルの切れで丁ねいにこすり又微温湯で石鹼分をよくのぞいておきます。リンネルの特によいのは纖維が長く毛羽がつかないのと水分をよくするからです。

・鏡をかける位置は光線を鏡の背後にして即ち顏に明るく鏡面に暗いほど、ハッキリした姿がうつります。鏡面に明るく直射光がさすと反射が強く姿が見えにくいもの。顏に對して斜前方から光をうける位置にかけるのが最も理想的によい姿をうつすのです。

時局小說

驀進

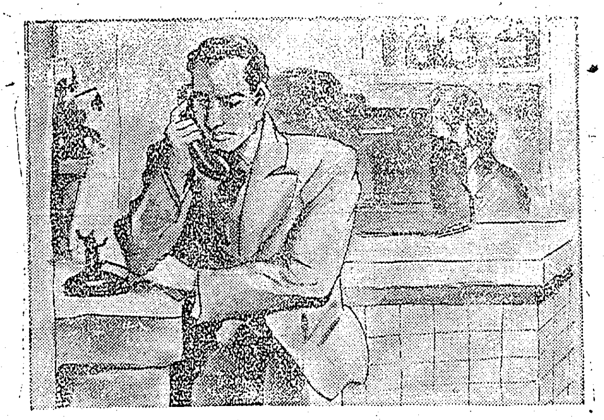
（新上演映畫化）

士別丁樹

北野傳畫

第百二十七回

故國へ（五）



[illegible]吉の顏には見る見る驚愕の色が浮んだ。

「どうしたのです。急でも[illegible]したのですか」

[illegible]が不[illegible]さうに訊いた。

「えゝ、金もですが、紙入れがなくなつたんです」

「紙入れ？其所らに落ちてゐるんぢやないかな」

[illegible]は女給達に命じて隅々まで探させたが[illegible]もなかつた。

[illegible]吉はどうもアザ鐵がそれを[illegible]つてゐたやうに思ひ出されるのである。

その紙入れには好枝のゐるアパートの番地も入つてゐるのだ。

[illegible]吉はよろ〳〵と立ち上つた。

「誰か、誰か自動車を呼んで下さい」

「それは[illegible]だよ。もう少し休んでからにし給へ」

「さうしてはゐられない、[illegible]が[illegible]思つてゐるのです」

「[illegible]が？」

君は、突然こんなことを云ひ出してこの男は頭腦の調子が狂つてしまつたのではないかと思つた。

[illegible]吉は[illegible]がグラ〳〵ッと目まひのする体を椅子に支へながら二三歩カウンターの方へ近づいた。さうだ[illegible]をかけやう——と氣づいた彼はカウンターの上にある受話器を手にとつた。

[illegible]吉が顫へる指先でダイヤルを廻してゐる姿を、君は不思議な面持で眺めてゐた。

「もし〳〵大森の美容院ですか。二十一[illegible]の[illegible]木[illegible]子さんを呼んで下さい」

[illegible]木[illegible]子と聞いて、君は飛び上る程驚いた。彼は立ち上ると[illegible]吉の顏を睨んで

「君、君は[illegible]子とどんな關係です」

と訊いた。

「えッ、あなたが[illegible]子さんの兄さんですか」

[illegible]は信じられぬやうな顏で、いや[illegible]を信じないのではなくその不思議な[illegible]を信じられないやうに君の顏をみつめた。

やがて[illegible]子が[illegible]に出てきた。

「あッ[illegible]子さんですか。好枝さんはゐますか、お[illegible]に……あゝさうですか。[illegible]はアザ鐵がそちらへ行くかも知れませんから用心してゐて下さい。あなたの兄さんも此所にゐますよ、え一寸待つて下さい」

[illegible]は傍らにゐる君に受話器を[illegible]した。

君には意外なことばかりであつた。

アザ鐵と云ひこの男と云ひ一體どうしたといふのだらう。

直ぐに[illegible]子の聲が聞えてきた。

「あ、[illegible]だ。[illegible]じられない？[illegible]らないな。[illegible]を片付けてからと思つたんでね。ウン今[illegible]いた處だ。何れ詳しく話す。これから直ぐ行く。何アザ鐵？[illegible]だと云へ何も出來ないよ。あ、安心しておいで」

君は女給に自動車を呼ばせて、[illegible]吉をそれに靜かに乘せてから、[illegible]を[illegible]ませ、[illegible]吉の横に[illegible]を[illegible]した。

車が走り出すと[illegible]吉は

「あなたはアザ鐵を御存知なんですか」

と訊いてみた。

「あ知つてゐるとも。彼奴が北海道の砂川の鑛山にゐた時から知つてゐるよ。それから小坂にもゐたし彼奴も僕をよく知つてゐる筈です。いつか小坂で十人ばかりで事務所を襲擊して[illegible]刀を振つた時、コッピどく叩きのめしたことがあつたが、それ以來大分、おとなしくなつたと聞いてゐたが、呆れた奴ですよ」

[illegible]吉が大森の美容院に[illegible]いてゐた時、よく君の話が出たが、謂ゆる力で他人を救いてゐることがよく判るのであつた。

兄妹共[illegible]に[illegible]りしたものだと[illegible]吉は心の中に今更ながら[illegible]してゐた。

自動車はやがて、アパート[illegible]に停車した。

花柳病科外科
木村外科醫院
平市南町（警察署通り角）電話三〇九番

…お買物なら
在庫品豐富な…
平市田町 銀座通り
玉屋洋品店
電話六五六番

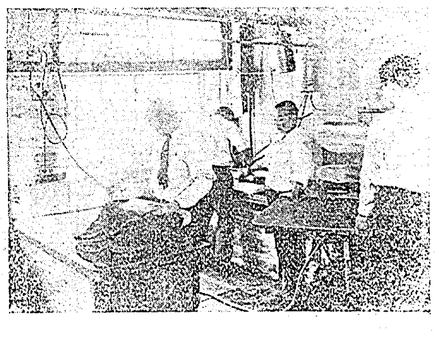
芳醇！
美味！
たひら正宗
山崎合名會社
電話一〇番

提灯と國旗

吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

メガネは！
平市二丁目
玉屋

仕事は早くなりました
◈無敵蒸氣仕上機械設備
此の度び新に日、英、米二十四特許權を有する優秀な蒸氣仕上機械を設備しました
毛織物の純ドライクリーニング
西洋洗濯は！
絶對他店の追從をゆるさず
△他店で御氣に召さぬ時は田町の
白榮舍ランドリー



フルーツみつ豆
あんみつ豆
フルーツポンチ
フクジケン獨特の
とんかつ……と
特製 燒かつ
福壽軒食堂
平驛前・電二八番

平病院（電六四一番）
平市警察署側【元共濟病院跡】
院主院長 醫學博士 鈴木定藏
內科 小兒科 院長 鈴木定藏
內臟外科 一般外科 副院長 高橋俊幸
皮膚泌尿器科 レントゲン科 物理的療法科 院長 鈴木定藏
藥劑科 部長 吉本孝平
◎診療時間 毎日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從事ス）（急患ハ此ノ限リニアラズ）
往診隨時
病室完備…入院隨時【自炊ノ便アリ】

喫茶 食事 酒場を兼ねた
レストラン
サロン
平市銀座街
電話五九二番
營業時間
開店・午前十時
御食事は午前十一時より
閉店…午後十一時半限り

氷賣場開設
今般御得意様の御便宜を計り工場內氷賣場を廢し大町一若松醫院前に氷賣場を設置、水野隆介を賣場主任に採用仕り候間御引立願上候
追而 凍魚、鹽干物は從來通り本社（電二二八・三一六）にて取扱ひ可申候
平製氷株式會社
氷の御用命は
電話二一九九番
平製氷直營賣所
平市大町

出征兵士武運長久祈願 土俵入
露拂 大關 羽黑山
橫綱 双葉山
太刀持 關脇 名寄岩
◎場所 平市公會堂裏 川岸
◎期日 四月二十二日 午前六時（雨天順延）中錢ナシ
入場料一等二圓四十錢（戰時稅二割共）
團體申込所
勸進元 平市 風戶秀雄

內科外科 一般
金成醫院
金成忠義
平市鎌田町 電話三五八番